

令和8年5月11日(月) 13:00~14:00

高松市立みんなの病院

みんなのホール

【出席者】

委員：六車直樹委員長、小島章裕委員、小林弘茂委員、元木泰史委員、土居譲治委員、

鎌田豊委員、綾田潔委員、鳥山宏美委員、和田大助委員、居村暁委員、加藤剛志委員、高橋正幸委員

欠席：喜田清美委員

傍聴者：森谷病院局長、鈴木事務局長、小林看護局長、他8名

【議題】

1. 地域医療・患者支援センター実績報告

(ア) 紹介率・逆紹介率

(イ) 救急患者状況

(ウ) 開放型病床利用状況

(エ) 共同利用

(オ) 患者サポート体制・相談件数

(カ) K-MIX R 利用状況

(キ) 研修会等の実施状況

(ク) 地域連携の強化、病院訪問

(ケ) 在宅療養後方支援病院の進捗

【院長挨拶】

六車委員長 今年には診療報酬改定を迎える年となり、地域医療構想、急性期病院の役割、格付が色濃く出る内容となっている。物価高騰の折、病院運営も厳しさを迎えているが、地域への医療連携体制をいかに維持していくか、委員の皆さまの御助言を仰ぎながら進めて参りたい。

【新任委員挨拶】

鎌田 委員 行政とみんなの病院は連携をし、市民の安全で安心な生活を担っていく重要な役割だと思っている。健康づくり推進課においても各種がんの検診、乳幼児を中心とした検診を進めている。市民一人一人が医療にかかり、健康増進に繋がっていけばと思う。みんなの病院が担っている急性期病院としての重要な役割もあるので、行政と病院が今後も連携して取り組んで参りたい。

【レスパイト入院について】

小島 委員 レスパイト入院についてインターネット検索をするとみんなの病院が1番に出てくるため、積極的にやっているのだと思うが、宣伝や取組を行っているのか。

橋本副院長 レスパイト入院は家族の介護疲れの予防等、最大 14 日間の入院となっており、今までに 100 名程度受け入れている。前年度は 16 名受け入れた。紹介に関しては、担当の先生より紹介状をいただき、当院の主治医を決め、予定入院として受け入れる。状態が安定していることが条件で、基本的に当院での治療や検査はできないが、急変にも対応しているので患者さんに安心して御利用いただいている。レスパイト入院については、今年度さらに力を入れたい。

【病院文化祭 医師のお仕事体験について】

小林 委員 昨年の秋、みんなの病院で開催された病院文化祭に参加した中学生の患者さんが、「みんなの病院で医師のお仕事体験をし、将来は医師になってみんなの病院で働きたい」と話していた。意識付けに良いため、今年度も開催していただきたい。

鈴木事務局長 今年度も 10 月下旬に病院文化祭の開催を予定している。

六車委員長 地域で医療人を確保していく事が病院においてもミッションと捉えている。

居村副院長 参加者アンケートには良い意見を書いていただけるが、その後も自発的にそのように発していただけるのは大変嬉しい。今後の文化祭でも予定していきたい。

【薬剤の入手困難について】

元木 委員 今年度は診療報酬改定があり、診療報酬全体としては微増だが、薬価については引き下げられている。医薬品は未だに出荷調整があり、薬が手に入らないため、他の薬に変更することはあるのか。出荷調整になっている場合、発注実績がないと新規で発注しても届かない。遠方まで走り回って薬を買いに行くことがある。

三豊・観音寺地区では、三豊総合病院が主体となり、地域で使用する薬を決める地域フォーミュラリを行っている。みんなの病院でも行って頂けると助かる。

六車委員長 出荷困難については薬事委員会でも議題が上がっている。当院でも担当者が奔走して集めている状況である。各病院同じ条件の中、一部、薬の囲い込みが起き、それが入手困難に拍車をかけている。原因としては、国のプロセスのチェックが厳格になっているために出荷量の調整をせざるを得ないと理解している。

スタンダード化については、地域でこの疾患にはこの薬と共通認識に持っていくことが重要であり、まだ議論の途上である。

【救急について】

土居 委員 救急車からの入院率が非常に高いのは、必要な医療が受けられていると感じた。

六車委員長 救急件数は減少傾向にあるが、救急車からの入院率が上がっているため入院が必要な救急の受け入れが効率的に行えているのではないかと。1 次医療機関、#7119 等の相談窓口が機能している傾向が出ている。

居村副院長 昨年からの新たな事業として 1 次医療機関の軽症受け入れ推進があり、当院は 2 次医療機関のためバックアップサポート施設として登録している。1 次のバックアップとして昨年は 10 件ほど受け入れており、2 次医療機関としてもバックアップサポート施設としても機能していると思う。

【講座の依頼について】

鎌田 委員 病気にかかる前にどうすれば良いのか、市としてのフォローをお願いしますという声がある。専門的な知識がないので、例えば熱中症対策はどのような事をしたら良いのか等の講義をする際、みんなの病院に御協力をお願いしたい。

飛弾副センター長 やさしく学べる健康講座を行っており、医師等が各コミュニティへ出向いている。このようなテーマで講演して欲しいとお問い合わせいただければ対応していく。

六車委員長 昨年、労働環境の整備として熱中症対策を各事業所で行うこととなり、健康福祉局から当院へ熱中症の講義をして欲しいと依頼があり、内科医師が講演を行った。オンデマンドで対応していく。

【K-MIXR 等について】

綾田 委員 6月に診療報酬改定があり、生活習慣病等は長期処方为国が推奨しているため、内科は何をするのかという話になっている。質の高い在宅医療であったり、基幹病院から紹介を受けて生活習慣病等の経過を診る等、情報連携が重要になってくる。

K-MIXRに利用状況について、他の基幹病院と比べていかがか。

弓削 MSW 他の基幹病院に比べると少ない。情報提供依頼書をいただき、公開する方が多い。

綾田 委員 今年からDX加算があり、電子的診療情報連携体制整備加算というのが取れるため6月以降の利用が増えると思うが、先月、今月の利用は増えてはいないか。

六車委員長 DXは今後加速度的に推進していかなければならないが、K-MIXRの利用状況については伸び悩んでいる。電子カルテの共通化が今後進んでいく可能性があるため、国のすり合わせがどのように進むか見据えたうえでK-MIXRの利用を進めていく。

飛弾副センター長 診療報酬改定に係る部分について、県の医療政策課から、K-MIXRが「電子化した情報共有」ということで、県として共通の掲示物を制作するほか、K-MIXRへの参画医療機関を増やしたいという話も聞いている。国が進めている共通プラットフォーム、電子カルテの情報共有サービスとのすみ分けを今後県が整理していくことになると考えている。

【入院時支援加算について】

鳥山 委員 入院時支援加算が昨年度の2倍程度増えているが、何か工夫した点があるのか。

橋本副センター長 医事課、薬剤局、栄養科、看護師がそれぞれ情報を得て入院前準備をすることで加算につながっている。

【紹介患者について】

和田管理者 紹介患者を断らないようにするにはどうしたら良いのか、伺いたい。

六車委員長 紹介に関して御意見等があれば、その都度お申出いただきたい。

【当委員会の開始時間について】

飛弾副センター長 前回、当委員会の開催日程（曜日）について、これまで通り5月、8月、11月、2月の月曜日に開催ということで御意見はなかったが、開始時刻について、業務の都合で13時開始では厳しいと

いう御意見があった。開始時刻を 13 時 30 分に遅らせるという事でいかがか。

(異議なし)

六車委員長 御了承いただけたということで、次回より 13 時 30 分開始とする。

六車委員長 長時間にわたり、貴重なご意見をありがとうございました。